

# 渡良瀬川を中心とした 自然体験活動を通して

群馬県邑楽町立高島小学校長 和田 幸子

屈託のない笑い声、滑らないように一足一足確かめながら足を進めている真剣な目、自然の中で活動する子どもたちは笑顔に溢れ、目がきらきら輝いています。教室の中では見ることのできない豊かな生き生きとした表情です。子どもたちには五感を駆使した、こうした活動が必要だと実感しました。

川の中を歩く、川を渡る、川で泳ぐ、川で魚を捕るなどの川での活動は、子どもが夢中になって活動できる反面、危険が伴います。それだけに川での学習内容を吟味し、子どもとの安全を十分確保する必要があります。

高島小学校では、学習指導要領に「総合的な学習の時間」が創設されたことを受け、平成12年度より、4年生以上の「総合的な学習の時間」に川での自然体験学習を年間指導計画に位置づけました。豊かな自然体験や本物の体験からしか得られない大きな喜びや感動を通して、子どもたちに「生きる力」や「豊かな人間性」を育むことにしました。こうして、身近な自然や渡良瀬川を学習の場とした自然体験学習の試行が始まりました。自然体験学習が単なる体験で終わらないように、それぞれの学年のテーマを明確にし、子どもたちに課題をもたせることにしました。

4年生はテーマを「渡良瀬川の四季」とし、中流域を中心に活動を展開しています。5年生のテーマは「わくわく発見！渡良瀬川と地域の川」とし、活動の場を上流・中流・下流域に広げました。6年生はテーマを「ありがとう渡良瀬川」としました。足尾銅山や雲竜寺など渡良瀬川の歴史をたどり、自然体験学習の集大成に取り組んでいます。また、昨年度より6年生は足尾の山に「緑をもどそう」の運動に参加し、植林を通して環境への意識を新たにしました。

各学年の体験学習が体系づけられ、発展していくように、活動の場や時期、内容の創意工夫を重ねてきました。そして、自然体験学習で学んだことを子どもの言葉で表現できるように、発表会を毎年行ってきました。

実施にあたっては、事前に国土交通省の河川事務所の方々と連携し、全教職員で子どもの活動の場となる川や林の調査をし、安全確保に努めてきました。本校の川での自然体験学習も開始から早、今年で10年が経過しました。このように長く継続できたのは、多くの方々の支えがあったからです。交通手段や児童の安全確保、ライフジャケットなどの準備を支援してくださる国土交通省渡良瀬川河

川事務所の方々や地域のボランティアの方々、河原で温かいものを食べさせようと労を惜しまず、子どもたちに味噌汁やカレーを作ってくださる保護者の方々、河原に生えている野草をその場でてんぷらにしてくださった野草の会の皆様、田中正造や雲竜寺のかかわりを説明してくださった先生、河原で生息する観察会でご指導してくださった野鳥の会の皆様等々、いろいろな方々のご尽力によるものと感謝の気持ちでいっぱいです。

川の学習では教員や保護者、国土交通省、地域の方々が川渡りの網を持ってくれるなど、子どもたちの安全を支えています。危険な活動もその人たちのお陰で、安全に楽しくできるなど、身をもって体験するため、感謝の念が培われ、素直な気持ちで自然な形で「ありがとうございます」と言えるようになっています。親近感が増し、仲良く協力できる子が増えました。また、あいさつもよくできるようになりました。感謝の心や優しさが育っています。子どもたちは、川が好きになったと同時に川の危険も身をもって理解するようになってきました。川に対する知識も増え、環境に対する意識の向上に繋がっています。

ペットボトルのキャップを集め、世界の子どもにワクチンを贈ろうと昨年から児童会を中心に保護者や地域を巻き込んだ「エコキャップ運動」の展開が始まりました。

このように、子どもが学習に意欲的に取り組むなど、自分の活動を再認識したり課題を発展させたりできるようになりました。

教師にとっては、子ども一人一人にきめ細

かく目を配れるようになりました。ボランティアの方々が子どもの安全を見守ってくださるので、子どもの活動状況に応じた声かけや支援がタイミングよくできるようになりました。その結果、子どもとの触れ合いの機会が増し、信頼関係がより強くなりました。

また、野鳥の会の皆様や田中正造記念館や矢場川を守る会の方々、国土交通省等の専門的な方々と連携しながら活動を展開できるため、教師にとっても多様な見方や考え方方が広がるなど、学習内容が深まり、活動の充実を図ることができました。

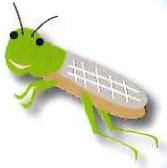
保護者や地域にとっては、学校と家庭、地域との連携が一層推進しました。地域の子どもは地域で育てる土壤が根づいてきました。保護者や地域の方々が川学習に参加し、子どもの活動の様子を見学し、かかわることにより、活動への关心や学校への理解が深まり、積極的に協力しようとする人が増えてきました。さらに、家庭や地域との連携がより緊密になり、保護者及びボランティア相互の親睦や交流が深まってきました。

平成20年度は群馬県より自然体験学習の実践が“特色ある教育活動”として表彰され、子どもたちはより自分の学校に誇りと自信をもつことができました。

学校生活でも、自ら進んで、物事に取り組むようになり、友達と協力して困難なことでもやり遂げようとする気持ちが育ってきました。学校生活に良い影響をもたらしています。

今後も自然体験学習を継続し、学習内容を精選し、活動の充実を図りながら、子どもの豊かな心や生きる力を育みたいと思います。

# 川を活かした 体験型学習 プログラム



# 1. 川や水を感じる

川にはたくさんの危険が潜んでいます。川を「より楽しく、より安全に楽しむ」ために、川の危険をよく知ることが大切です。

1-1	川や水辺の安全講座（室内講習編）	ページ 69
1-2	川や水辺の安全講座（実技編）	73
1-3	川を流れよう	77
1-4	Eボートに乗ろう	81
1-5	カヌーに乗ろう	85
1-6	Dボートをつくって乗ろう	89
1-7	遊びを探そう	93



# 体験型学習プロ

## 2. 川や水辺の環境を調べる

川や水辺には豊かな自然環境が見られます。自然環境を知ることで、自然の仕組みや法則を理解することができます。

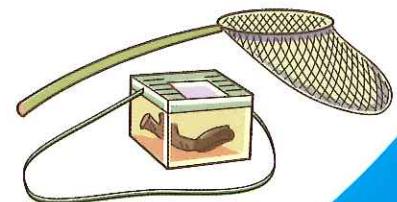
2-1	諸感覚をつかい水質を調べよう	ページ 97
2-2	川の生物から水質を調べよう	101
2-3	科学的に水質を調べよう	105
2-4	川の流れの速さを調べよう	109
2-5	石や砂を調べよう	113
2-6	模型から水の流れを学ぼう	117
2-7	ゴミの分布を調べよう	121



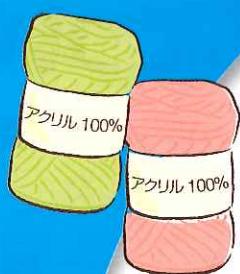
# 3. 川や水辺の生き物を調べる

川や水辺は自然の宝庫です。生き物の生息は地域によって異なり、また、川の上流、中流、下流でも多様で独特的な生態系が見られます。

- |     |             |            |
|-----|-------------|------------|
| 3-1 | 底生生物を捕まえよう  | ページ<br>125 |
| 3-2 | 魚を捕まえよう     | 129        |
| 3-3 | 陸上昆虫を捕まえよう  | 133        |
| 3-4 | 鳥を観察しよう     | 137        |
| 3-5 | 植物を観察しよう    | 141        |
| 3-6 | 生き物の分布を考えよう | 145        |
| 3-7 | ホタルを飼育してみよう | 149        |



# グラムの紹介



# 4. 環境保全・改善について

川は都市用水や灌漑用水の供給源で、水は人の暮らしに欠かすことができません。また、川は、そこに息づく生き物たちにとっても、貴重な恵みの場なのです。

- |     |             |            |
|-----|-------------|------------|
| 4-1 | ビオトープを活用しよう | ページ<br>153 |
| 4-2 | 川にやさしいリサイクル | 157        |
| 4-3 | 水をきれいにしよう   | 161        |
| 4-4 | 下水処理場を見学しよう | 165        |

「川を活かした体験型学習プログラム」  
河川環境管理財団(現:河川財団)

1  
プログラム

2  
プログラム

3  
プログラム

4  
プログラム

5  
プログラム

6  
プログラム

# 5. 洪水の怖さや防災について

地球的規模の気候変動に伴い、大雨の頻度が増加したり、風水害が頻発したりしています。風水害の原因や防災についての理解が大切になっています。

5-1	洪水の怖さを学ぼう	ページ	169
5-2	地域の川の洪水の歴史を学ぼう	173	
5-3	治水施設について学ぼう	177	
5-4	水防について学ぼう	181	
5-5	ハザードマップをつくろう	185	



# 6. 川と地域の歴史や文化について



川は、人々との様々な自然体験、交流の場であり、長い歴史の中から地域特有の文化が生まれてきました。

6-1	川でのイベントに参加しよう	ページ	189
6-2	生活と川との結びつきを調べよう	193	
コラム1	「子どもの水辺」へ行こう	197	
コラム2	地域の人々に川の話を聞こう	199	
コラム3	ゲストティーチャーを呼ぼう	203	



ライフジャケットマーク

※ライフジャケット（救命胴衣）の着用は、万一の水中転落に備えて重要です。ここでは、ライフジャケットの着用を必要とするプログラムや活動に、「ライフジャケットマーク」をつけています。危険が少ないと感じても、ライフジャケットは必ず着用して活動するよう指導してください。

「川を活かした体験型学習プログラム」  
河川環境管理財団(現・河川財団)